

2017/09/02

第三期 (2016-17 年度) 幹事会

第九回会議議事録 (作成者 : 近藤和都)

出席者 (敬称略) : 安藤、伊藤、井上、近藤、竹田、挽地

【報告事項】

1) 代表幹事より

■ 来年度のカルチャラル・タイフーンについて

伊藤代表幹事から、次回大会開催校についての報告があった。

- 次回大会を龍谷大学にて開催することが提案され、承認された。あわせて、次回大会の日程を6月23日(土)24日(日)とすることが提案され、承認された。
- くわえて、以下の諸点について議論が行われた。

① Call for paper の受付時期について

- 前回・前々回は受付時期を二回に分けていたが、応募者が第一期に集中すること、応募者が多くなることで第一期と第二期とで選考基準にばらつきが生じる可能性があること、等の理由から、今回は受付を一回とすることが決定された。
- 10月7日から応募を開始し、12月23日を締切とすることが決定された。なお、これまでの大会運営の方針を鑑み、運用に柔軟性を残すことが確認された。

② 参加費・登録料について

- 非学会員報告者の利便性を向上させるために、前は別々に徴収していた発表登録料および大会参加費を、事前一括して徴収することが提案され、承認された。
- また、前はグループ報告の場合は、グループ内に一人学会員がいれば、他の非学会員報告者は発表登録料を支払う必要はない、という運用を行った。だがその場合、非学会員個人報告者と非学会員グループ報告者との間に不公平が生じる。そのため次回は、グループ内に学会員がいたとしても、非学会員報告者は全員、発表登録料を支払うことを求めるようにすることが提案され、承認された。値段は以下の通りである。なお、学会員は発表登録料を支払う必要はない。

発表登録料および参加費合計 (非学会員報告者)	
有職者	10,000 円
非常勤・学生	5,000 円

- あわせて、大会参加費についても議論があった。前回の参加者のうち半数以上が学生・非常勤だったことを鑑み、参加費を据え置くことが提案され、承認された。

参加費 (学会員報告者および当日参加者)	
有職者	3,000 円
非常勤・学生	1,000 円

③ 大会委員会について

- 前回総会で、幹事会のなかに「大会委員会」を設けることが承認された。そのことを踏まえ、具体的な運用においては担当幹事を任命することが提案された。
- 前回大会の実行委員長を務めた経験もあり、円滑に大会を運営していくにあたって適任であることから、川村覚文会員を幹事会推薦幹事とし、大会委員会担当幹事とすることが提案され、承認された。
- また、次期以降の幹事会においても大会担当幹事を置くことを念頭において、今回の大会を運営していくことが確認された。
- 前回大会の反省点として、パンフレットの編集責任者が不在となり、多数の混乱が生じたということがあるため、大会委員会担当幹事が編集長を兼ねて対応することが確認された。
- 10 月中に第一回大会委員会を開く必要があることが確認され、伊藤代表幹事が速やかに龍谷大学の担当者の方と連絡を取ることとなった。

④ 申込用紙フォーマットの作成について

- 大会委員会を中心に、パンフレット作成の労力を軽減するためにも、応募者が間違っただけで記入しないような統一フォーマットを、川村大会委員長を中心として再作成することが確認された。

2) 総務・会計委員会より

■ 2017 年度カルチュラル・タイフーン収支報告→資料

井上総務・会計担当幹事から、前回大会の収支報告および会計処理上のいくつかの報告・提案が行われた。

- 前回大会参加者は 418 名となり、カルタイ開催準備金 10 万を学会に返納した上で 54,259 円の黒字となった。
- 黒字ではあるものの、当初の最低予想をやや上回る程度であった。十分な黒字化が達成できなかったため、学生アルバイトに支払う給与の部分をやや圧縮することとなった。

→過年度の会計監査において厳しい意見を頂いたため、透明性確保についても念頭に置

きつつ、今回の収支報告書を会計監査に報告することが提案され、承認された。

- 大会関係の振込を現在学会負担で行っているが、今後は振込者負担にするべきではないかという提案がされた。
→次回以降は、学会費・登録料・参加費等の振込については、振込者負担として、それに応じた振込方法・金額を採用することが承認された。
- 海外からのゲストスピーカーの招聘費が大会収支において大きな比重を占めたため、来年度以降は、より積極的に外部資金の獲得が目指されることとなった。とりわけ、開催校である龍谷大学の学内公募に申請することが重要であるということが確認された。申請の際には、当学会の「国際性」を訴えかけることの重要性が指摘され、それに応じた申請書類の作成を行うことが提案・確認された。
- また今回の学会運営においては学生アルバイトの人数が結果的に多かったことが指摘され、次年度以降の大会では、より適切な人員配置を行うことが重要であると確認された。
- HP 作成費・運営費を株式会社未知の駅に支払うことが承認された。

■ 年間スケジュールと入退会フローについて→資料

竹田総務・会計担当幹事から、学会運営上の手続きについて報告がされた。

- 学会の円滑な運営のために、現在各担当幹事が行わなければならない作業の年間スケジュールを作成中であることが報告された。
- 入会・退会についての明確な作業フローが規定されていなかったため、あらためて、入会申込から入会までの流れが提案された。
- 大きな変更点としては、入会申し込みがあったあとに、幹事会での承認が必要となった。入会希望者の利便性向上のために、幹事会の年間スケジュールを HP 上に掲載することとなった。ただし、発表申込・投稿申込を希望する入会希望者のために、「仮入会」制度を導入することとなった。
→以上の諸点について、9月2日より施行することが承認された。

■ 議事録の扱いについて→資料

- 総会議事録・幹事会議事録について、透明性確保のために、HP 上で公開することが提案され、承認された。
- 総会議事録は、とりわけ重要な資料となるため、HP で公開するとともに、会員サービスの一環として、議事録の要点 2、3 点をまとめ直したものを配信することがあわせて決定された。
- 幹事会議事録については、HP 上にアップロードされることが決定された。

■ 業務委託について→資料

- 今後学会を担っていく若手の事務負担を軽減するため、また学会を持続可能な形で運営していくために、外部委託を本格的に検討していくことが提案され、承認された。今後詳細な見積もりを作成していくこととなった。

3) 企画・海外連携委員会より

研究活動の今後の方針について、安藤企画・海外連携担当幹事より報告があった。

- 今年度中に、関東と関西で一回ずつ、少なくとも二回は、若手研究報告会を開くこととなった。その際、公募を行い、広く若手の会員から報告者を募ることとなった。
- 「書評会」の開催についての希望が多く寄せられているものの、会員の多数の著作を取り上げる余裕が現在の幹事会にはないことを踏まえ、他学会の事例や現在の若手研究者の状況をもとに議論し、当面は若手の研究報告会の企画に集中することにした。
- 学会有志が企画した「書評会」については、幹事会の承認後に、「学会として後援」することが決定された。その際、文面をお送りいただいた場合は、学会フェイスブック、ツイッターを用いた広報協力を行うことが決定された。
- 以上の点に関する窓口を、HP上に設けることとなった。

4) 編集委員会より

挽地学会誌編集担当幹事より、学会誌編集にあたってのいくつかの改善点が報告された。

- 多くの投稿が寄せられている現状を踏まえ、学会誌のクオリティを維持するために、当面予算70万の運用が必要になることが報告され、次年度の予算見込みとして承認された。
- 現状、編集委員長(有元)に業務の集中が起こっているため、可能な限り外部委託することが提案された。
→外部委託について異論はないものの、予算の現状を踏まえ、まずは見積もりの作成を行うこととなった。

5) その他

以下の点について議論があった。

- 総会にて、学会規約の改定作業に取り掛かることが承認された。このことを踏まえ、推薦幹事についての規定があいまいなため、次回以降の幹事会で、推薦幹事に関する規約策定を議論することとなった。